

平成28年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について

津山市立清泉小学校

教育目標(めざす児童生徒像)

豊かな人間性を培い 自ら学び たくましく生きる 清泉の子どもを育成する

○よく考える子ども ○助け合う子ども ○やりぬく子ども

今年度の指導の重点

○基礎学力を充実し、自主的に取り組む学習態度を育てる。
 ○人間関係の改善・深化を図りながら、豊かな心・健やかな体を育成する。
 ○指導力の向上と授業改善に努め、教育力のある学校をつくる。
 ○学校を地域に開き、信頼される学校を目指す。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

全国(小・中学校)

○国語Aでは、漢字の読み書きがよくできているが、図や表と関連付けた読み取りが課題である。また、ローマ字の書きとりも正答率が低かった。
 ○国語Bでは、昨年度よりも無回答率が減ったが、意図や目的に沿って読み取ったり、自分の考えを書くことなどが課題である。
 ○算数Aでは、小数の計算や数の大小の理解が低い。また、割合で100%の意味や単位量の求め方も課題である。
 ○算数Bでは、数量関係以外の領域で県の平均を上回った。課題としては、グラフから読み取ったことをもとに理由を記述したり、式の意味を説明記述したりすることなどが挙げられる。

県(中学校)

○国語の活用については昨年より正答率が上がっているが、基礎は下がっている。特に読み取りでは、無回答や不十分な回答が多い。
 ○算数は、教科全体では、県平均よりやや上回っている。特に数量や図形についての技能では県より上回った。活用については引き続き課題である。
 ○理科は、教科全体では県平均を上回っている。自然についての知識理解がやや下回った。
 ○社会は、基礎・活用ともに県平均を上回っている。政治の働きでは同じ間違いが多かった。

【学習状況調査の結果】

○ほとんどの児童が、授業で自分の考えを発表する機会が与えられていると思っている。
 ○平日、休日ともに家庭学習が1時間以下の児童の割合が高い。家庭での学習時間が少ない傾向が見られる。
 ○テレビ等の視聴時間が2時間以上の児童の割合が高い。しかし、ゲームやネット、スマホの利用時間は1時間以内の児童が多い。
 ○読書時間が1時間以内の児童が多く、図書室を利用している児童も少ない。
 ○ほとんどの児童が、地域の行事に参加している。
 ○地域や社会で起こっている問題や出来事に対しての関心は高いが、毎日新聞を読んでいる児童は少ない。
 ○自分にはよいところがあると思っている児童の割合が低い。
 ○あいさつは登下校の際よくできている。

成果と課題

○基礎学力向上のために、昨年度から復習と個別指導に力を入れて取り組んでいる。4～6年生全員対象の放課後算数教室では、週1回、2学年前からの復習をしている。朝の学習等で、国語・算数の前学年までの復習を取り入れている。その結果、基礎基本が少しずつ定着してきた。
 ○単純な条件の場合、その条件を満たして解答する力が身につけてきている。これは、毎日の授業の中で、キーワードや条件を入れてまとめる場面を設定してきた成果だといえる。今後はさらに、複雑な条件提示の場合のまとめ方など、授業の中で場面を設定して指導していく必要がある。
 ○記述式の問題では、正答率が低い。これは、問題文を読むスピードが関係しているのではないと思われる。時間を決めて、決められた時間内に文や表・グラフなどを読み取ったりすることが必要である。また、読み取ったことをもとに条件に合わせて自分の考えを書く練習も必要である。
 ○語彙力が低く、自分の考えを述べたり、相手の立場や状況を感じ取って助言したりすることが難しい。また、問題を解くときに、聞かれていることの意味が理解できていない様子もみられる。朝の集いなどで、全校に向けて発表する場面も意図的に入れて指導してきたが、さらに授業での話し合いや学び合いを深めていきたい。それと同時に、読書活動をさらに推進し、語彙力を高めていきたい。

課題に対応した改善方法

○基礎学力の向上のために、復習と個別指導を継続して行う。
 ○毎日の授業の中で、キーワードや条件(複雑な条件)を入れてまとめたり、自分の考えを書いたりする場面を設定する。
 ○毎日の授業の中で、時間を決めて、決められた時間内に文を読み取ったり、問題を解いたりする場面を設定する。
 ○語彙力を高めるために、授業での学び合い学習・読書活動の推進を行う。
 ○問題データベースは、授業の中で練習のためや定着を図るための宿題等で活用する。また、朝の学習で、前学年までの復習の際にも活用する。

取組の検証方法及び検証時期(2学期末及び年度末)

○現学年までの漢字の読み書きを、朝の学習・宿題・授業の始まりなどで繰り返し取り組む。
 ○社会科や理科の重要語句の読み・書き・意味理解を宿題や授業の始まりなどに繰り返し取り組む。
 ○文章を書く能力・長文読解能力の向上をはかるために、授業の中では自分の考えをノートにまとめ、ペア学習で相談する活動を随時取り入れる。高学年では、過去問題や新聞記事紹介に取り組む。
 ○家庭学習の時間確保と内容の充実をはかるために、参観日や学級通信等を利用して「家庭学習の手引き」の活用と自主勉強の内容を提示する。

各校の具体的な達成目標(数値目標等)

○現学年までの漢字の読み・書き・・・年度末までに、90%以上の定着
 ○社会科・理科の重要語句の読み・書き・意味理解・・・年度末までに、90%以上の定着
 ○文章を書く能力・長文読解能力の向上・・・年度末までに、決められた時間内で文章を書いたり、長文を読み終えたりすることができるようになるまで
 ○家庭学習の時間確保と内容の充実・・・年度末までに、学習時間(学年×10分+10分)が90%以上の定着